

「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を振り返って

〇〇高等学校 芸術・書道 〇〇 〇〇

1 授業の目標

「仮名の書」の中の蓬莱切を題材として、仮名に興味関心を持ちお互いに自分の考えを発言しながら協同的に学び、学習した内容を生かそうと紙面構成をさらに深めることができる。

2 公開授業を終えて先生方のご感想

- ・ICT 機器を導入した授業展開の参考になった。
- ・今回の単元は臨書だが構成に焦点を当てることで創作の基礎も学ぶことが出来る
- ・手間暇のかかる授業プリント作成や生徒指導が想像出来る
- ・自主的に意見交換出来ていた
- ・生徒の仮名の技術が高い
- ・身につけさせたい力をさらに明確に
- ・ループリックの活用は良いが内容を精査すべき
- ・意見交換にもう少し時間を費やすべき
- ・協同的に学んだ後の生徒の変化（深めたこと）を全体で共有する手立て（Zoom 等）を考えても良かった。音楽の〇〇先生が活用されていたような ICT 機器が参考になる
- ・タブレット・動画教材・実物投影機・プロジェクターを活用した授業で難しそう
- ・用筆運筆が上手く出来ていない子に対する個別指導の充実

3 ICT 機器活用に関して・全体を通して思うこと

授業の効率化・明確化の為に ICT 機器活用は必須であると、今回の研究授業を通して実感した。

タブレットを用いて構成を考える際にあらかじめ撮った対象画像をトリミングや自由に配置した。生徒達も普段パソコンや携帯画像アプリ等で慣れている子が多かったので違和感なくスムーズに進んだように感じた。実生活に通じるような題材や手法を意識することの大切さを学んだ。また、動画教材について、あらかじめ教師側が撮影した手本動画を副教材として利用出来たことは良かった。自由に早送り等使って運筆の怪しい箇所をリピートしていたので自分のペースで活用出来ていた。

反省点としては、タブレット使用方法等沢山の先生方に教えていただきご迷惑をおかけしたこと、実物投影機は学校の性能の高い物を借りて使用しているので、やりやすかったが出来れば書道室に一つ完備したい。また、構成を考える過程の画像作品をいくつか保存しておくべきだったことである。生徒の成長の過程として記録すべきであった。最後に、今回このような機会を設けていただき視野を広げることが出来た。休日や研究授業直前まで私のためにご尽力いただいた県教育委員会指導主事には感謝している。